

かすが



すべての子どもが 仲間とともに いきいきと学べる 春日小学校

「こども110番の家」

玄関先に、この旗をかかげている家があります。何か事件にまきこまれそうになったときに、助けを求めることができる場所です。

「自分の命は、自分で守る」

お子さんが自分で判断し、行動できるよう、家庭でのご指導もお願いします。

こども110番

あぶないと思ったらこども110番の家へ

こんなときは110番の家にいげよう！

- ・つれていかれそうになった
- ・へんな人がついてきた
- ・うでをつかまれた
- ・体をさわられた

枚方市・枚方市青少年育成指導員連絡協議会

【保護者・地域の皆様へ】 ※日ごろから、「あいさつ」をして顔見知りになることも大切です！

買い物のついでなど、近所や通学路等にある「こども110番の家」をお子さんとチェックしてください。登下校も含め、地域の皆様の子どもたちへの声かけも、引き続き、宜しくお願いします。

じりつへの第一歩： 自分から動くための 「こころ」の持ち方



なにのために？ (目的意識)

その行動によって何を実現しようとしているのか、目的をはっきり持ちましょう。

だれのために？ (対象の明確化)

自分の行動が誰の役に立ち、誰を笑顔にするのかを意識することが大切です。

「なぜ」を 自分で納得する

「叱られるから」「みんながしているから」ではなく、自分自身の理由を見つけて取り組みましょう。

チャレンジ やってみる！

失敗を恐れずに新しいことへ踏み出し、自分で決めたゴールに向かって努力を続けましょう。

「自立・自律」した子どもに…

2学期の始業式。子どもたちに、「何のためにしているのかを考えよう」と伝えました。

何のために「元気なあいさつ」「ピカピカそうじ」をするのでしょうか？春日の伝統だから？先生がしなさいと言うから？代議員の子どもたちが、朝休みの終わりに「走ろう」と声をかけていますが、なぜ走らないといけないのでしょうか？走って教室に戻ることが目的なのか、チャイムとともに授業を始めることが目的なのか…。

1つ1つを「なにのために？」と考え、させられるのではなく、自ら実行する人になってほしいと願っています。

左の資料も参考にしながら、今、自分ができるとは何か、自分で選んで自分で決めて実行してみましょう！間違っても失敗しても大丈夫。それを糧（エネルギー）にして、「やってみよう！」と自信をもってチャレンジしてほしいと思っています。

ご家庭でも、お子さんの「やってみよう！」を応援してください！（#^.^#）

【学校教育自己診断アンケート（１回目）】 ＊「わからない」の回答は省略

子どもたちの「感覚」です。一部を掲載しています。おおむね、肯定的回答が多いのですが、注目するのは否定的回答をしている子どももいるということです。自分の気持ちや状況を「伝えられない」子どももいます。子どもに、「話しなさい」ではなく、学校や家庭で、「**どうしたら、子どもの気持ちや想いを聴くことができるのか**」という観点で考え、すべての子どもに寄り添った対応をしたいと考えます。また、お子さんのことで心配な点があるときは、いつでも相談してください。学校からも相談させていただく場合もあります。

■学校に行くことが楽しい。

○1・2年(肯 86.8% 否 11.3%) ○3・4年(肯 88.2% 否 11.9%) ○5・6年(肯 86.8% 否 12.4%)

■困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人に相談できる環境があることを知っている。

○1・2年(肯 74.2% 否 22.6%) ○3・4年(肯 74.6% 否 14.4%) ○5・6年(肯 73.5% 否 14%)

■クラスは、ひとりを大切にしたい、安心できる場所である。

○1・2年(肯 84.1% 否 8.3%) ○3・4年(肯 81.4% 否 12.7%) ○5・6年(肯 87.6% 否 6.6%)

■勉強でこまったときや分からないときに、先生や周りの友だちに「わからない」「教えて」とたよっている。

○1・2年(肯 78.9% 否 12.9%) ○3・4年(肯 79.7% 否 15.2%) ○5・6年(肯 86% 否 8.3%)

■友だちと考えていることがちがっても、友だちのことをわかろうとしている。

○1・2年(肯 79.6% 否 9.4%) ○3・4年(肯 86.4% 否 6.7%) ○5・6年(肯 86.8% 否 6.6%)

■自分で問いや課題を持って、それらを調べたり、解決しようとするなどの学習に取り組んでいる。

○1・2年(肯 78.1% 否 10.4%) ○3・4年(肯 74.6% 否 16.9%) ○5・6年(肯 74.4% 否 19.8%)

■自分は、まわりの人(家族や先生、地域の人)から大切にされている。

○1・2年(肯 86.5% 否 9.9%) ○3・4年(肯 85.6% 否 2.5%) ○5・6年(肯 83.4% 否 10%)



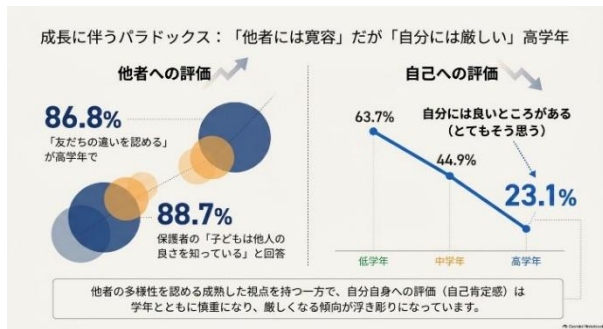
1・2年と3・4年、5・6年、保護者のアンケートをまとめて集計したものです。子どもたちの「強み」を活かし、子ども一人ひとりが自立・自律して学び、それぞれの成長につなげていくための授業づくりや仲間・集団づくりに、そして、今年度、力を入れている「探究学習」にも注目してまとめています。



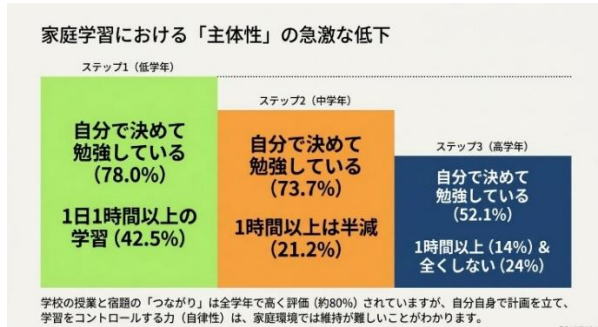
保護者の 91.9%は、子ども理解について肯定的に捉えています。また、子どもの 80%以上が、学校や家庭、地域のおとなに「大切にされている」と感じているとともに、友だちや仲間との「つながり」についても強く感じている傾向にあります。さらに、他者への思いやりについて、学校が推進している「一人ひとりが認め合い、人権を尊重する教育（保護者の 83.3%が肯定）」を通じて、「互いの良さや違いを活かしあう力」に向けて育まれていると考えます。「人の役に立ちたい」（児童：約 95%肯定）「相手を理解する（低学年：79.6%肯定 高学年：86.8%肯定）」

子どもたちの「安心感」と「思いやり」の強みを活かし、自己肯定感を高めていきたいと思います。

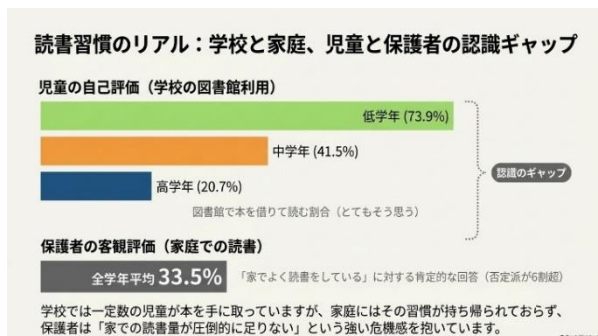




主体的な行動の源は「自分には良いところがある」という自信です。高学年になるにつれて「自分の良さ」を強く実感する子どもが減少。友だちの良さを認める意識（88.7%）を「**自分も誰かの役に立っている**」という確信に変え、**自分の考えを、自信を持って発信できる力**を育てていきたいと思います。

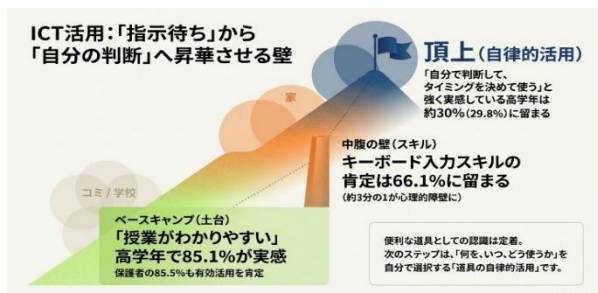


家庭学習の状況について、学年が上がるにつれて学習時間の確保が難しい様子が見られます。保護者の結果からは、「子どもは家で予習・復習をしている」と回答した保護者は43.9%であり、半数以上が十分ではないと感じています。



また、「読書」について、学年が上がるにつれて「図書館で本を借りて読む」という肯定的回答が低下しています。保護者の認識は、学校の様子に比べて低い数値となっており、保護者が期待する読書量とのギャップがあることが推測されます。

家庭学習や読書等、子どもたちが学校での学びを家庭へ、あるいは自らの生活へと主体的につなげていきたいと考えます。



学校の授業で「自分に合った学び方を選ぶ場面がある」と児童の80%以上が肯定しているが、その主体性をタブレットの活用や家庭学習にまで広げることが大切だと考えます。明確な「めあて」「ゴール」に向かって一所懸命に頑張る「強み」を活かし、指示待ちではなく、何を使って学ぶかについても自分で考え、実行する姿勢を育てます。



「人の役に立ちたい」という意欲は全学年でとても高いものの、「地域を良くしたい」「地域の人と活動したい」という意欲は学年が上がるにつれて、緩やかに減少する傾向にあります。また、保護者から見た地域貢献についての肯定的回答は52.5%。子どもたちの「役に立ちたい」という意識に対し、実際の地域貢献には、まだ「伸びしろ」があります。



「学校で用意された枠組みの中での主体性」は高いものの、それらを自らコントロールし、生活全体に広げていく「自律性」に課題があると考えます。この課題を克服するためには、**失敗を恐れず、やってみる、自分自身で自分をコントロールする経験を積み上げていくことが重要だ**と考えます。

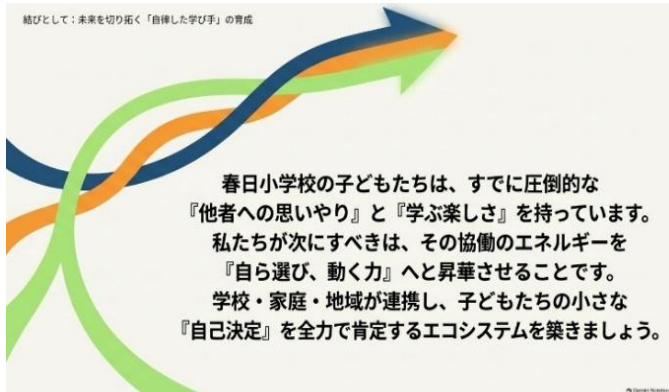
Next Actions: 「安心の枠組み」から「自律への足場かけ」へ



学校や家庭、地域等のあらゆる場所において、「自分で選択し、自分で決定すること」(例: ICT ツールを自分で決めて活用、選択制の宿題)、「自ら問いをもって、すぐに答えが出ないテーマについても粘り強く考え、取り組むこと」(今、取り組んでいる探究学習もその1つ)を、各学年で計画し、系統的に取り組み、自律性を育てていきたいと考えます。

子どもたちは「友だちと協力して問題を解決する」ことに高い価値を感じており、これは「探究学習」を進める上で大きな武器です。一方で、「自分自身で学習をコントロールする(計画を立てる、ICTを判断して使う)」ということについては、「学校の枠組みの中での主体性」に留まっている傾向が見られます。保護者の75.6%は、学校が「社会に必要な力」を身に付けさせていると評価してくださっていて、今後は学校で培った協働的な姿勢を、いかに子ども自身の「自律した学びの習慣」として家庭や社会につなげていくかが、探究学習を深化させる鍵になると考えます。

結びとして：未来を切り拓く「自律した学び手」の育成



学校教育アンケートは、その時の「意識」ですので、ここでの結果がすべてではありません。しかし、子ども一人ひとりの成長のために、学校や家庭、地域が連携して何ができるのか、何をしなければならないのかを具体的に考える指針になります。子どもたちの「強み」をより高め、伸びしろを伸ばすために、学校と家庭、地域が連携して取組を進めていきたいと考えます。

保護者の皆様、地域の皆様へ 今後も、ご協力とご支援をよろしくお願いします。

「第61回 運動会」が行われます！

10月10日(土) 8時50分開始、11時30分終了 (予備日 10月14日)

来週、9月14日(月)から、運動会の取組が始まります。限られた時間の中、子どもたちは、**自分で、自分たちで「できること」**を考え、取り組んでいきます。教師から教わることもありますが、「させられる」運動会ではなく、**自ら進んで取り組む運動会、自分なりにがんばる運動会**になるよう、一人ひとりが自覚を持って取り組むことを期待しています。

同様に、おとも、「何のための運動会なのか?」「誰のための運動会なのか?」を考えておく必要があります。決して、おとなが思い描くことを、子どもを通して表現させる場ではありません。

以前は「根性でがんばろう!」「集団行動だから、みんなに合わせよう!」という指導が美徳とされてきました。もちろん、自分が持っている以上の力を出してがんばることや、集団でしていることの意義・意味を理解して行動することも、生きていく上で大切なことです。でも、これらは、子ども自身が「そう思う」ことが大切なのではないでしょうか? 他から強制されるのではなく、子ども自身が選んで取り組む、それぞれが「楽しい」「頑張っている」と思える運動会をめざします。

「出来栄え」ではなく、子ども一人ひとりが、「自分なりに頑張っている姿」を応援しましょう!

いつもピカピカで、「ありがとう!」が学校中にあふれる春日小学校